

定例市長記者会見録

日 時：2月18日(水) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中部経済新聞

本日の案件は1件で、「2026（令和8）年度 一宮市 予算の概要」についてです。

高市政権でも責任ある積極財政をうたっていますが、一宮市も予算規模が拡大しています。一般会計は1,467億円余と過去最大規模で、9年連続で過去最大を更新している状況です。大変ありがたいことに、歳入では市税も順調に伸びており、前年比3%増で過去最高額を更新しました。所得の増加により個人市民税が10.8億円、新築家屋などの増加により固定資産税が4.2億円、それぞれ増える見込みです。財政調整基金に関しては、2025年度末時点で70億円ほどに積み上がる予定ですが、お金を“貯える”ではなく“使う”ことを意識し、今回は基金の半分以上の43億円を取り崩して新年度予算に充てます。

それでは、新年度予算の中で目玉となる20事業をピックアップした「2026 一宮市の予算イチ推し20」の各項目を順に説明します。

No.1「最先端のAIを活用した実証事業にチャレンジします」

大学の研究室と連携して、行政の現場でもAIを取り入れていくものです。三つの事業を予定しており、一つ目が「市民の声を施策に反映する AI エージェント実証事業」です。日々、市民の方からメールや電話をいただきますが、特に問題意識を持っているのが電話です。ホワイトカラーの労働生産性を高める上で、思い切って代表電話を廃止している企業もあります。行政はなかなかそういうわけにもいきません。ただ、メールや電話をテキストベースで解析をすることで、一定の傾向を読み取り、その結果から市のウェブサイトを変更すれば電話をいただかなくても解決するものもあるのではないかと考えています。また電話での対応が必要な部署には一時的に職員を手厚くするなど、市政に反映できるサイクルを構築していけないか、という実証事業を考えています。二つ目がいじめ対策で「対話型AIによるいじめ対策実証プロジェクト」です。現在、小中学生に1人1台配備しているタブレット端末にチャットボットを入れることで、お子さんがチャットボットを活用する中で、AIが危険な兆候を読み取れるのではないかと、という実証プロジェクトです。三つ目は「AI人材育成支援事業」で、ワークショップやイベントを開催するというものです。

No.2「“地域DX”デジタルサービスを拡大します」

まずは施設予約システムです。これまでのシステムは、学校施設、スポーツ・公園施設など施設ごとにシステムを分けて構築してきました。これらを統合して市ポータルサイトのイチ・デジのIDでシステムを利用できるようにします。料金の支払いもキャッシュレスでの対応を進めていきます。デジタルデバインド対策としては、スマホ教室や相談窓口を開催します。次に、図書館でLINE公式アカウントを開設します。一宮市では2025年度に防災LINE

を始めましたが、図書館でも LINE を活用したサービスを充実させていきます。

No. 3 『防犯シティ” いちのみや” 大作戦』 Part2』

2025 年度に「防犯シティ” いちのみや” 大作戦」として実施した個人宅への防犯カメラやセンサーライトの購入設置費用に対する補助事業について、実際に成果が出ていると受け止めています。2025 年の 1 年間で住宅対象侵入盗が、愛知県全体で 1 割以上の増加に比べて、補助事業を実施した一宮市は 1 割以上の減少という良い結果が出ていますので、引き続きこの事業を続けていきます。また市の公共施設や都市公園など、防犯上不安なところにも、防犯カメラを順次増やしていきます。

No. 4 「マイナンバーカード電子証明書の更新手続きをもっと便利に」

マイナンバーカードの交付等事務については 5 年ほど前のコロナ禍において、国がマイナポイントを大盤振る舞いしたことで、大きく普及しました。ただマイナンバーカードの有効期限は 10 年ですが、電子証明書の有効期限は 5 年ですので、これから多くの人更新を迎える時期になります。そこで平日夜間の窓口を一宮駅のいちのみや駅ナカプラザで開設することにします。7 月開設の予定で、火曜日と木曜日の午後 5 時半から 7 時に予約制で開設します。実際に運用して、その混み具合も見ながら拡大することも考えています。いちのみや駅ナカプラザは平日にパスポート業務を取り扱っていますが、今は円安でパスポートの所持率が 2 割を切っている状況ですので、できるだけマイナンバーカードの関係事務も増やしていこうと考えています。

No. 5 「給食費の負担を大幅に軽減します」

国策では、いわゆる給食費無償化という言い方が使われています。なぜ“いわゆる”かは、国は 1 人 1 ヶ月当たり全国平均の 5,200 円を小学校に配るというルールにしています。一宮市の場合では、給食費は 5,200 円を超えていますので、それだけでは足りないこととなります。そこで不足分を市が支援して負担を軽減します。まず小学校の 1 学期と 2 学期は無償化にして、3 学期は毎月 500 円弱のご負担をいただきます。一方で中学校は給食費の改定により給食費がいきなり増えることとなりますので、1 学期は毎月 1,000 円、2 学期は毎月 500 円を市が支援します。

No. 6 「新しい命の誕生とその先の笑顔を支えます」

二つありまして、一つ目が新たに始める不妊治療の補助事業です。通常の保険適用でない不妊治療に係る先進医療について、これまで補助はありませんでしたが新年度から補助率 7 割、上限 10 万円で実施します。二つ目は産後ケア事業です。これまでの産後ケアの基本料金については、例えば宿泊型で 1 日あたり自己負担額 7,500 円を頂戴していました。全体で 30,000 円の負担の中の 7,500 円ですが、1 泊すると 2 日分で 1 万 5,000 円にもなり、少し負担があると感じています。そこで新年度からは、自己負担額を 1 日当たり 3,000 円に減らして、さらに宿泊しない方に対してはデイサービス型を新しく用意します。さらに、多胎児加算として双子などの場合にいただいていた追加料金をなしにして産後ケア事業をより使いやすくします。

No. 7 「” クリーンな街へ” カラス対策をサポートします」

ごみボックス設置補助について、3~4年前、コロナ禍では9割補助で実施しましたが、復活してほしいという要望が多くありましたので、新年度から2分の1補助で再スタートさせます。

No. 8「中小企業等の賃上げを促進します」

国も物価高に負けない賃上げを掲げていますので、現場サイドの市では市内の企業や個人事業主の皆さん、社会福祉法人や医療法人などを対象に最大30万円の補助をします。できるだけシンプルな手続きで支援金を交付したいと思っています。7月から受け付けを開始する予定で準備を進めています。

No. 9「オフィス誘致で賑わいを創出します」

1月の記者会見でも説明させていただきましたが、これまでは工場や物流拠点などの事業所を誘致していましたが、2025年の夏ごろから、オフィスや学術研究機関、ホワイトカラーの事業所にも力を入れて誘致を始めました。主なターゲットはまちなかです。一宮駅周辺はおかげさまでマンションなどは建ちますが、企業が少なくベッドタウン的な色合いが濃くなっています。そのため、平日昼間のにぎわいを増やそうとオフィス誘致を始め、新年度も引き続き力を入れて取り組んでいきます。

No. 10「BISHUの海外販路開拓とPRを強化」

繊維産業に係る海外販路開拓の支援事業です。2月15日にIGアリーナ（名古屋市）でTGC（東京ガールズコレクション）が開催され、尾州の生地が大きく取り上げられました。そうした機会もあり、近年は尾州の認知度も上がってきていますが、生産現場は高齢化や事業承継でお悩みのところが多くあります。そのような事業者には、海外で戦いましょう、と言っても難しく、また欧州ラグジュアリーブランドを中心に、ファッション業界では環境対応や動物福祉の国際基準をクリアすることが求められています。そこで地元企業の海外への進出を後押しするため国際認証の取得費用の補助を新年度に始めます。

No. 11「地域を水から守ります」

浸水被害の対策です。昨年、三重県四日市市で地下駐車場が浸水したことは記憶に新しいと思います。一宮市は、26年前の東海豪雨の時も地下駐車場の浸水は免れていますので、そこまで危ない地域ではありませんが、念のためということで地下駐車場の車両出入口に止水板を設置することにしました。

他にも雨水貯留槽の整備や、日光川へ排水するポンプ場をリニューアルするものになります。

No. 12「ラウンドアバウトで交差点を安全に」

ラウンドアバウトは、市内では一宮駅前の銀座通りに1カ所ありますが、今回市内2カ所目として尾西スポーツセンターの前に整備します。ここは交通事故が多発している箇所です。この交差点をラウンドアバウトにすることで事故も減少し、さらにモニュメントを設置することでランドマーク的な色彩も持たせられるのではないかと期待しています。

No. 13「スマートICを活かした産業拠点の創設」

尾張一宮PAスマートIC（仮称）は昨年12月に国の新規事業化が決まりましたが、ICの

料金所などは NEXCO 中日本が設置しますが、一般道から料金所までの取り付け道路は市道になります。それに関する測量や設計、あわせて周辺地域の土地区画整理の事業化に向けた調査委託ということで予算を組んでいます。

No. 14 「木曾川の魅力を活かしたかわまちづくり」

国土交通省とタイアップして、木曾川周辺の魅力をアップさせていきます。一つの柱がサイクリングで、サイクリングロードが市内で途切れている箇所を国の力も借りながらつなげていけたらと思っています。

No. 15 「歩きたくなる『まちなか』をつくります」

まちなかウォークアブル推進事業です。銀座通りはまだいろいろなご意見をいただいていますので大きく手は入れられません。本町通りは 2026 年度から本格的な事業に着手していきます。本町商店街の道路は普通のアスファルトですが、ここを真清田神社の参道らしく和風テイストに変えていこうと考え、地元関係の皆さまとも合意形成が得られるよう進めています。

No. 16 「住まいの耐震化支援を拡充します」

住宅の耐震化率は、愛知県の平均が 92.3% に対して一宮市は 90% 未満、と少し遅れをとっています。耐震改修をしない理由として、改修費用が高いという意見があります。そこで、工事費自体を安くする方法として、最初の設計を緻密にすることで結果として全体の費用を安く抑えられるというものがありますので、そうした新しい手法に対して応援していこうというものです。

No. 17 「新たな時代にふさわしい教育施設をつくります」

シン学校プロジェクトとして大々的に小中学校の建て替えを進めていこうとしています。小学校の他施設との複合化や、大和南小学校と大和南中学校のように一宮市初となる小中一貫校への改修などの基本設計を新年度に行う予定です。そしてもう一つが、給食を作る共同調理場です。2024 年にできた東浅井給食センターはアレルギー対応食も提供できて非常に好評で、第 2 共同調理場を整備する準備をしています。

No. 18 「屋内運動場のエアコン設置をすすめます」

小中学校の屋内運動場の空調整備で、今年度、第 1 グループである北部中・奥中・尾西第一中・千秋中の 4 校での工事が進んでいます。残りの中学校 15 校について新年度に工事を行う予定で、今年の夏には間に合いませんが来年の夏には空調設備が使えるように進めていこうと考えています。

No. 19 「パラスポーツを盛り上げます」

アジア・アジアパラ競技大会関連の予算です。特にパラスポーツ、中でも車いすテニスの小田凱人選手は一宮市出身で、市民の関心も高いです。小田選手は、今年もおそらく国際大会で飛び回られるので、スケジュールの調整次第とはなりますが、一宮市での凱旋パレードについてご本人も前向きでいらっしゃると思いますので、何とか実現できるよう予算を計上しています。

No. 20 「産学官の連携で健康課題の分析をはじめます」

保健データ分析事業で、大学病院と話を進めています。糖尿病などから来る腎機能の不全によって人工透析や腎臓移植などを行います。市の財政的な立場からすると、医療費の負担は大きくなっている状況です。それに対して、早期に治療するための受診勧奨ができるような枠組みを作れたらいいなということで、産学官の連携で取り組むことにしています。

以上、私からの説明とさせていただきます。

質疑応答

(記者) 新年度予算で、特に重点的に予算が使われているところを教えてください。

(市長) 暮らしやすいまちづくりということで、子育て支援を中心に取り組んできた路線は、引き続き進めていきたいと思っています。

物価高騰対応による短期的な給付と、教育施設の充実や屋内運動場のエアコンの設置など中長期的な投資・インフラ整備とのバランスを考慮した予算編成にしました。

(記者) 市民の声を施策に反映する AI エージェント実証事業の取り組みは、珍しいものですか？

(市長) おそらく日本初になるのではないかとということで、今準備を進めています。

一宮市でも 2~3 年前から確定申告の電話予約受け付けに AI 電話システムを導入しています。これは単純な予約手続きができるもので、24 時間の対応が可能で話し中にならないというメリットがあります。

単純な予約業務は AI でも対応可能ですが、業務内容やシナリオによっては複雑な受け答えが必要となるため、AI に勉強させる必要があります。

一宮市では、市民がどのような内容で電話をかけてきているのかをデータ分析し、キーワードを抽出することで、市民のニーズを把握しようと考えています。この分析結果を基に、ウェブサイトの改善などに活用できるのではないかと仮説を立て、検証を進めていきます。

(記者) AI エージェントの実証時期はいつ頃から始めるのですか？

(職員) これから決めていきますが、できるだけ早く始めるように進めます。

(記者) 対話型 AI によるいじめ対策実証プロジェクトについて教えてください。

(市長) いじめ対策実証プロジェクトも AI エージェント実証事業と同じ学術研究機関と連携する予定です。

これはチャットボットで、子どもたちにいろいろなことを相談してもらいます。入力されたキーワードから危険を察知する方法や、どの程度の内容を先生に知らせるべきなのか、またそうではないのかというガイドラインを、文部科学省でも同じ問題意識を持っていますが、実証プロジェクトに一宮市も参加します。

(記者) ラウンドアバウト整備事業は、いつ完成しますか？

(市長) 令和 8 年度中に完成します。